

臨時大会の獲得すべき課題

動労内革マル及びそれに追従する一部反動分子による、規約・規則無視―機関運営ルールをふみにじった公然たる千葉地本に対する組織破壊攻撃の激化。そして「中央本部」の「千葉地本臨時大会の開催は絶対に認めない」などという、事実上の「千葉地本執行権停止攻撃」を頂点とする理不尽極まる千葉地本無視・抹殺攻撃の真只中において、あらゆる制動を許さず、二月一〇日第三二回千葉地本臨時大会は開催される。

本臨時地本大会が獲得すべき第一の課題は、

一〇一回定中委以降公然と時には隠然とエスカレートした、千葉地本排除組織破壊攻撃を、一四〇〇組合員の決起をもって未然に封殺した千葉地本・支部防衛闘争を総括し、「三里塚敵対」「貨物安定宣言」「水本運動」に代表される動労の変質、革マル派のセクト的私物化を排し、血と汗の闘いの歴史で築いた「鬼の動労」の伝統と自らの生活と権利を守るために、千葉地本一四〇〇の「動労改革」へむけた不退転の決意を宣言する大会として勝ちとらなければならない。

「中央本部」の二月六日付電話連絡三五二号「千葉地本の解明要求書に対する本部見解」なるものは、われわれにとって絶対に容認できない代物である。

電話連絡三五二号の内容は、千葉地本「組織二六・二七号」に記された五項目の解明要求を意図的に無視し、千葉地本の主張をネジ曲げた居直りと独善的な書き方である。

おそらく、この電話連絡の執筆者は、この間の経過から判断すると城石組織部長であろう。なぜならば、「千葉地本再建のために団結がんばろう」などと公然と発言し、いまだ自己批判も撤回もしないで、居直る人である限りむべからぬことである

本部は『解明要求』に真正面から答えよ

とわれわれは理解する。この電話連絡に対するわれわれの反論は、本紙二七・二月七日付に掲載したが、さらに付け加えるならば、「かかる言葉尻をとらえての解明申し入れ行為は、より組織の亀裂を深めるばかりか・・・」などと居直って書かれているが、青木書記長や城石組織部長が公式機関会議で「敵対矛盾」「裏切り者」「千葉地本再建にむけ・・・」などと公然と千葉地本を罵倒し、組織破壊の意図をあらわにしたこの事実を単なる「言葉尻」だと居直りごまかそうというのか。「中央本部」は事実をネジ曲げ、事実から逃げずにまじめに答えるべきだ。

本部こそ、組織指導の原則を守れ

さらに、「組織の亀裂を深める」と平坦と書かれているが、「中央本部」は、白を黒といいくるめるのか。前述した青木・城石両氏の組織の最高指導者として絶対に言ってはならない暴言の事実こそ「組織の亀裂」を深めるばかりか、千葉地本一四〇〇名を排除せんとするまさに組織の解体・分裂につながる暴挙ではないか。

そして「解明すべき点は、次期定期中央委なり、本部教宣として正式に行う・・・」などと書かれているが、千葉地本の解明要求は昨年末以来の規約・規則をふみにじった本部青年部・関東地評及

び青年部の諸事実を糾し組織的処置を明確にすべきであるとしたものである。

「中央本部」は、規約・規則―組織運営のルールの原則にたつて、速やかに組織的処置を講ずるべきである。

それが動労組織の「同一性」を保障する生きた組織指導ではないのか。

われわれは再度要求する！

「中央本部」は「五項目要求」にただちに答えよ。